

## 刊行のことは

長谷部弘教授は、2021年3月31日をもって本学を定年により退職されました。長谷部教授の長年にわたる本学での研究・教育などにおける業績を称えるために、本誌『研究年報経済学』の第78巻第1号を、長谷部教授のご退職を記念する特別号として刊行いたします。

長谷部教授は、1978年3月に東北大学経済部経済学科を卒業され、1983年3月に東北大学大学院経済学研究科経済学専攻を単位取得満期退学後、同年4月に東北大学経済学部助手として着任し教員としての第一歩を踏みだされました。その後、1985年4月に東北大学教養部講師、1989年4月に助教授へ昇任されたのち、1999年4月に東北大学大学院経済学研究科教授（日本経済史担当）として着任されました。この間、1993年9月から1994年6月までカルヴィン神学校歴史資料館において文部省在外研究員を務められ、1996年3月には東北大学より博士（経済学）の学位を授与されました。以後、2021年3月に退職されるまで、長きに渡り研究、教育、管理運営に携われて、本研究科を支え続けてこられました。

長谷部教授の研究は広範囲にわたりますが、市場経済成立期の地域経済に関する歴史研究、村落社会・コミュニティに関する歴史的理論的研究、そして市場経済化とコミュニティに関する国際比較研究で研究史上大きな足跡を残されただけでなく、自治体史の編纂や防災と地域社会の歴史研究を通じて歴史学による現代的な課題の対処にも取り組んでこられました。長谷部教授の研究の特徴の一つは、一次資料の発掘と整理・分析という歴史学研究において最も大切かつ困難を伴う作業を継続的に行いながら、資本主義形成期における市場経済化とコミュニティの関係を分析するという経済史上最も重要なテーマを綿密な実証研究で解明された点です。もう一つの特徴は、日本社会で明らかにされた基層部分（「イエ」と「ムラ」）の実態解明を国際比較で相対化・理論化して共同体に関する新たな学問領域を開拓された点です。長谷部教授による学際的かつ国際的な学問領域の開拓によって、経済史のみならず社会学や歴史人口学など他の領域からも新たな研究成果が生み出されました。また、資料調査を通じて歴史学研究に必要な不可欠な一次資料の提供と調査方法や史料批判という暗黙知を授けることで、国内外に多くの後進を育ててこられました。

このような多大な研究業績をふまえ、長谷部教授は、社会経済史学会や日本村落研究学会などの主要学会において理事や会長等の要職を歴任し、学界全体の活性化に大きく貢献してこられました。さらに長谷部教授は、2007年には全学教育科目社会科学学科目委員長、2012年4月から2014年3月まで評価分析室担当を務められ、本学の研究教育活動の進展のために大きな貢献をされました。部局内では、2004年4月から2005年3月まで大学院経済学研究科経済学専攻長、2006年4月から2008年3月まで経済学部経済学科長、2009年4月から2011年3月まで経済学部副学部長・大学院経済学研究科副研究科長を歴任し、本研究科の管理運営にも献身的に尽力されました。

以上のように、長谷部教授には、本研究科の発展のため、名実ともに多大な貢献を残して頂きました。長きにわたり本研究科を支えて続けてこられた長谷部教授のこれまでのご貢献に深く感謝の意を表するとともに、教授の新たな門出にあたり今後ともますますご健勝でこれまで以上にご活躍されますことを深く祈念する次第です。また我々後進に対し、引き続き温かいご指導・ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2021年3月31日

東北大学大学院経済学研究科長 守 健 二